

イオンモール新利府にて

遊泳中の事故防止啓発活動実施！

菖蒲田海水浴場（七ヶ浜町）や荒浜海水浴場（亶理町）が令和4年7月16日（土）に開設されたのを皮切りに、県内各地の海水浴場が開設されていたなか、宮城海上保安部は、海上安全サポーターの高橋美香さんや海上保安庁のマスコットキャラクター「うみまる」、宮城県警察と連携し、遊泳中の事故防止等を広く呼びかける「MIYAGIロード&マリナー新利府において開催しました。

同日イベントでは、宮城県警察音楽隊による生演奏のほか、海上保安庁や警察の制服試着等もあり、多くの家族連れの買い物客が足を止める中、「開設された海水浴場で泳ぐこと」、「グループで行動し、特に子供から目を離さないこと」、「離岸流に気を付けること」等の遊泳中の事故防止のほか、もしも沖に流されてしまった場合の対処方法として「浮いて待つこと」、「救命胴衣の正しい着用方法」等について、リーフレットや海の緊急ダイヤル「118番」がプリントされた風船を配布し、高橋さんと一緒に多くの来場者に呼びかけました。

これからも、宮城海上保安部は、海上安全サポーターの皆様方と連携し、事故のない宮城の海を目指して参りますので、サポーターの皆様におかれましては、変わらぬご支援を頂きたく、引き続きよろしくお願いいたします。



来場者に安全啓発グッズを配布する
サポーターの高橋美香さん（写真中央）



遊泳中の事故防止を呼び掛ける
サポーターの高橋美香さん（写真中央）
と「うみまる」

〔啓発活動計画〕

県内の、マリンレジャーに伴う海滨事故は、釣り中の事故が突出して多く、それらは秋季（9月～11月）に多く発生する傾向にあります。特に11月に多発しています。

このため、宮城海上保安部では、10月、「3M仙台港パーク釣り公園」において、釣り人に対する安全啓発活動を計画しています。

海上安全サポーターの皆様にもご協力いただきたく、詳細が決まりましたら、参加のご案内をさせていただきます。

活動へのご協力
よろしくお願いします！



■遊泳中の死亡事故発生

令和4年7月、県内の砂浜（開設された海水浴場以外）で遊泳していた18歳男性4人が「離岸流」により沖に流され、そのうち3人は何とか自力で岸に戻ったものの、1人は約10メートル沖まで流されたため、近くで釣りをしていた方が一〇番通報し、救助を要請したものの、行方不明となりました。その後、当庁をはじめ関係機関で捜索していたところ、翌日、発見されましたが、残念ながら搬送先の病院で死亡が確認されるという痛ましい事故が発生しました。

遊泳中の事故の原因の一つとして「離岸流」が挙げられ、過去、県内でも離岸流を原因とした事故が何件も発生しています。

また、県内の海水浴場は8月下旬で終了し、各海水浴場に配備されていた監視員の方々が不在となると、例年、9月以降も残暑が厳しい日が続く、閉鎖された海水浴場等で遊泳を楽しむ方がいらっしゃる。

このため、宮城海上保安部は、海水浴場が閉鎖された後も、各海水浴場管理者等関係者と共に遊泳中の事故防止を呼び掛けていきますので、海上安全サポーターの皆様におかれましては引き続き、遊泳中の事故防止啓発活動へのご協力をお願いいたします。

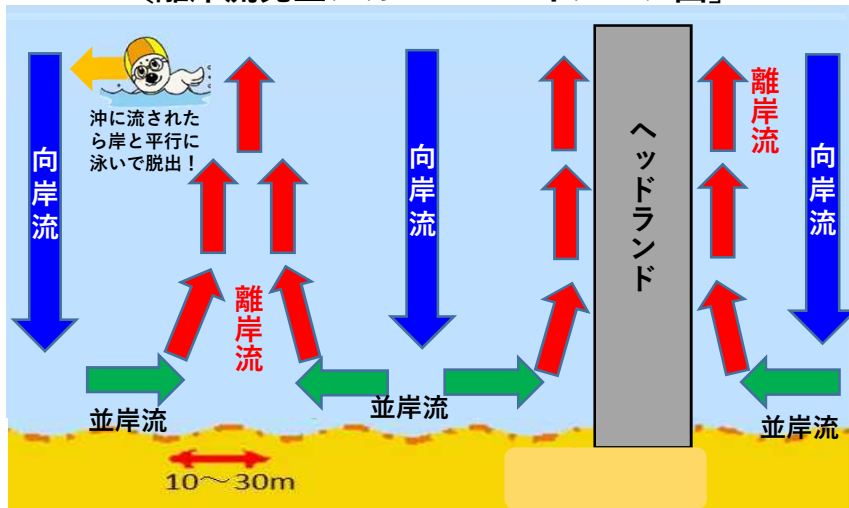
離岸流とは？

遊泳中の事故原因の一つとしてよく挙げられる「離岸流」ですが、こういったメカニズムによって発生するのでしょうか。

「離岸流のメカニズム」

「離岸流」は、名前のとおり、岸から沖に向かって流れる海流の1つです。海岸付近では、沖から岸に向かって流れる「向岸流」と、波打ち際を浜に平行に流れる「並岸流」と発生し、異なる方向からの「並岸流」同士が当たって発生するのが主な「離岸流」です。

「離岸流発生メカニズムのイメージ図」



離岸流の発生する海域では、このような潮流の循環が形成されている。また、河口なども、河川流と海流が複雑に入り乱れるため、離岸流が発生しやすいので要注意。

「発生しやすい場所」

離岸流は、海岸が外洋に面している海域（防波堤や消波ブロックで遮られていない海域）、遠浅で海岸線が長い海域や、ヘッドランドという人工岬でも発生しやすい、また、波が高い日に大きな威力となる傾向にあります。



「離岸流の速さ」

離岸流の流速は、一般的に「五輪の競泳選手も逆らえないほどの強い流れ」と例えられることが多く、どんなに泳ぎが達者な人でも「離岸流」に飲み込まれた場合、この流れに逆らって抜け出すのは非常に困難です。このため、離岸流に飲み込まれてしまった場合は、岸と平行に泳ぎ、離岸流から抜け出すようにしましょう。

「離岸流と海水浴場」

離岸流は、その日の気象・海象によってどこでも発生し得るものですが、海水浴場は、このような発生しやすい海域を避けて遊泳区域が設定されており、さらに救命資機材や監視員を配置しているため、安心して遊泳を楽しむことができます。

「注意事項」

県内には、外洋に面している海岸やヘッドランドがありますが、このような場所では遊泳をしないようにしましょう。また、サーフフィッシングをする方も注意が必要です。

もしも流されてしまったら…「浮いて待て」！

皆さん、万が一、海にながされてしまった場合は、どうしたらいいと思いますか？

答えは「浮いて待て」。「浮いて待て」とは、海面に脱力した状態で仰向けで浮いて救助を待つ方法のことです。大声で助けを求めたり、泳いだりするのは、体力の消耗を早め、適切ではありません。

「「浮いて待て」のコツ」

海中転落をした場合、泳ぎにくいからと「靴や衣類は脱ぐ」と耳にしますが、それは大きな間違いです。特に靴はかなりの浮力をもっており、靴を履いている方が、とても楽に「浮いて待つ」姿勢をとることができるようになります。

「海中転落者を見つけたら？」

もしも、岸壁等で海中転落者を発見した場合は、ペットボトルやクーラーボックス等身近にある浮くものを投げてあげましょう。海中転落者はパニックを起こしている可能性が高いため、浮くものを掴ませることで、より安心してあげることが非常に有効です。

なお、救助者自身が飛び込んで救助に向かうと、パニック状態の海中転落者に抱き着かれ、共に溺れてしまう可能性がありますので、決して飛び込んで助けに行つてはいけません。万が一、皆様がこのような状況下になつたら、この記事を思い出し、冷静に行動してください。

